立命館大学所属　学生団体

# Entervibe

エンターバイブ

『感動を共有する』をコンセプトにテクノロジーとアートを融合したエンターテイメントを創造し、多種多様の人が一つになる空間をつくる。

Twitter : @entervibe
E-mail : entervibe1221@gmail.com

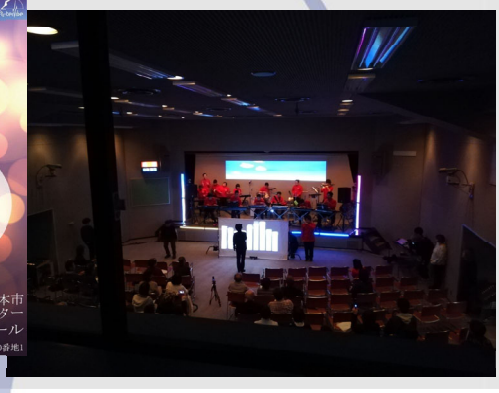
## ◇活動テーマ◇

多種多様な人々が「感動」を共有することで相手を知るきっかけをつくりお互いの理解を深め尊重し合う空間を作ること。
そのうえで今回はハンディキャップのある方々の演奏会に映像演出で参加することで映像学部としての学びを実際に社会で活用することを目標とした。

## 楽団ケ・セラ×Entervibe
## ～全員演者の演奏会～

2019/11/24
長野県松本市教育文化センター
視聴覚ホールにて

障がいを持つ人が、音楽を通して社会的に自立できるよう、2002年から長野県松本市を中心に活動しているNPO法人楽団ケ·セラとのコラボレーション企画。
私たちEntervibeは、楽団ケ·セラの奏でる音色に合わせ映像やライトが変化する、プロジェクションマッピングやメディアートを盛り込んだ観客参加型の演出を考え、制作した。



## ◇演奏会を終えて◇

広く一般の人々が参加できるイベントの開催ということで、規模感を大きくできたことが団体として良い経験になった。演出のディレクションを明確にし、それに沿ってクリエイターが制作を進められたことも会場の変更や日程調整などがあったにも関わらず、本番を無事に終えられた秘訣だと考える。観客の方々からのアンケートでは、「自分が演奏会に参加していると感じた」という回答が多く、目指していた演出ができたことが分かった。加えて、「感動で人をつなぐ」をコンセプトに活動してきたが、当日は制作した自分たちも含めて、演奏会という1つの空間でつながったと感じ、エンターテイメントの可能性を痛感するとともに、自分たちの活動に自信がついた。

また、学外の団体とのコラボレーション企画ということで、文字通り新しいコミュニティを形成することができた、広報で伺った長野大学や演奏会に来てくださった他の団体からも、自分たちの活動に興味をもってもらい、声をかけて頂くこともあり、今後の活動の幅を広げることができたのではないかと思う。

## ◇今後のビジョン◇

多様な人が住みやすい社会を実現するためにエンターテイメントを通じて、個性を尊重し認めるという「次世代のあたりまえ」を創る。前述のミッション達成の為、キャンパス内だけでなく企業や行政などと一緒に取り組み社会と密接な関係を築き上げていく。
映像を通して、表現者として、プロデューサーとして、何を社会に伝えていくのか。
これからもたくさんの作品を生み出し、様々な人との交流を通して、考えていきたい。

# International Development Field Camp 2020

Fostering Sustainability

## IDFCとは

IDFCは2014年に「日本とミャンマーの学生の国際交流」を目的に発足され、今年で 6年目を迎える団体です。IDFCは、メインテーマを元に細分化された、「社会課題」「文化理解」「自己分析」の3つを柱に本会議を開催しています。本会議中は日本とミャンマーの学生が各々の社会課題の分科会に所属し、それに応じてサイトビジットやディスカッション、そして現地の大学生に向けてシンポジウムを行います。

## 今年度のテーマ”Fostering Sustainability"と3つの分科会

現在、世界的にもホットなトピック ”Sustainability"。グローバル化が進み、国境を超えた資源や人々の移動、文化や流行が広がる中、 ”Sustainability"の重要性は増してきています。利用可能な資源には限りがあり、それらの公正な分配や持続可能な開発が求められています。一方、それは環境的・技術的な側面には止まりません。人々の移動に伴う文化の軋轢、都市化と人口過疎、伝統文化の継承危機などグローバル化に伴う課題は多数存在し、文化・経済など様々な側面から見た持続可能な社会の在り方を考える必要があります。実際に両国を訪れることで両国の現状と課題を学び、両国の学生の交流を元に持続可能な社会の在り方を模索していきました。

| Social Entrepreneurship | Tourism | Tradition&Globalization |
|---|---|---|
| 起業コンセプト、ソーシャルビジネスについて特に焦点を当ててサイトビジットを行います。ディスカッションでは、社会が直面する様々な課題から一つを選び、企業や個々人がどのようにして解決していくべきか議論をします。 | 日本では観光業の進展による功罪、ミャンマーでは観光業の現状に目を向け、サイトビジットを行います。ディスカッションでは観光業を用いた持続的な発展についてディスカッションを行います。 | サイトビジットでは、新しいテクノロジーや流行を取り入れて復興を図る伝統、世界で再評価された伝統について注目します。ディスカッションでは、伝統文化がどのように継承されていくのか考え、将来の在り方を考えます。 |

## IDFC2020の本会議での成果

2/18-2/29の12日間、京都、マンダレー、ヤンゴンの 3都市で参加者、実行委員総勢 47名で本会議を迎えました。各地域にて、社会課題に応じサイトビジットやワークショップ、ディスカッションを行いました。また、文化コンテンツでは歴史的建造物を巡ったり、セルフブランディング企画では両国の参加者同士、性格や目標、夢などについて語り合いました。そして、本会議の最後のアウトプットとして、ヤンゴン大学にてシンポジウムを実施し、過去最高の 60名以上を動員しました。

# TEDxRitsumeikanU Never Give Up 2020.11.02

## TEDとは

- TED は 、多種多様な分野や文化からのアイデアを広めようとする団体です。これらのアイデアは、**学習意欲を高めたり**、**社会問題にフォーカスする**などの有意義な変化をもたらすという積極的な役割を果たせます。
- 1984 年 に Richard Saul Wurmanによって設立され、当初は**テクノロジー**、**エンターテイメント**、**デザイン**の３つの分野の融合に焦点を当ててきました。

**TEDxRitsumeikanUとは**

TED×は2009 年にTED によりスタートしたプログラムです。TEDが、アイデアを世界中の地域社会に提供することを目的とし、TEDのイデオロギーや精神を広め、奨励することを目的としています。申請して認可されて初めて、「TED」という名を使う権利を得られ、講演会を開かれます。我々、TED×RitsumeikanU はそのライセンスを2017 年の12 月に取得しました。

## 活動について

**活動テーマ**

- 今年のテーマは「**Never give up! 諦めないで**」です。去年、私たちが初めてTEDイベントを行う時に、たくさんの問題と直面して必死に取り組み、解決したことをきっかけに、どのようなことに対しても「諦めないで! 」という考えがありました。
- 今回のTEDイベントで、自分の夢に向かっている人々に「**諦めずにやり続けたら、きっといつか実を結びます**」というメッセージを伝え、応援したいと考えていますので、テーマは「Never give up! 諦めないで! 」にしました。

**活動目的**

- 様々な分野に輝いているスピーカーを招待し、 スピーカーたちがどのように困難を乗り越えたことや自らのアイデアや発想をTEDイベントに参加しにきた観客に共有し、観客それぞれ自分の**殻から打ち破ることを触発したい**と考えています。
- 話し手と聞き手が話し合える場を開催するうえに、ベンチャー企業をスポンサーとして招待しました。**スピーカーと観客とベンチャー企業が交流できるプラットフォームを作りたい**という目的で、この活動を開催しました。

## 成果報告

- 今年は**元外交官、元NASAエンジンニア、関西観光局のSNSマネージャー、大学生１人と大学院生１人**をスピーカーとして合計５人を招待しました。
- 観客を**１００人**に達成しました。
- スピーカーと観客とスポンサーの間にディスカッションできる場を作りました。

## 今後のビジョン

- 2020年の目標は200人以上が参加できるTEDxイベントを行うのを目指しています
- 私たちのゴールは、TEDxRitsumeikanUが立命館大学に基づいて、関西を超えて代表するような団体になることです。

# 立命館大学 体育祭運営委員会

# 体育会体育祭 2020

2020年2月14日(金)
大阪いばらきキャンパス
アリーナで開催

《活動テーマ》

体育会同士が互いに応援・刺激し合う関係となり、立命全体を盛り上げることにつなげる。

《活動内容》

応援団チアリーダー部・体育会本部・AVAから有志で集まったメンバーで体育祭の運営委員会を立ち上げ、立命館大学全体育会学生対象に体育祭を開催しました。『一人一人が強いつながりを持ち、互いに刺激を与える体育会へ』をコンセプトに、体育会の部同士が、横のつながりを深めるきっかけ作りとなるよう、綱引き、大縄跳び、障害物競走などの競技を取り入れ、1～3回生の学年対抗で行いました。

《活動の成果》

参加団体：アメリカンフットボール部、硬式野球部、女子サッカー部、男子サッカー部、軟式野球部、ラグビー部、応援団チアリーダー部

参加人数：257名

＊参加者対象の事前・事後アンケートより

【事前】

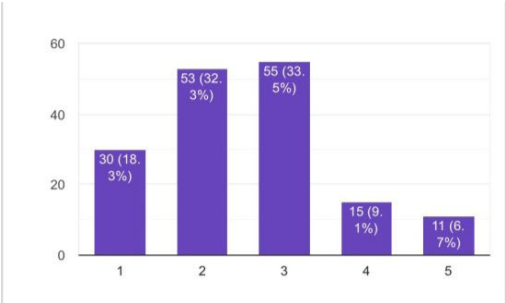



図1：他の部とのつながりは十分であると思いますか？
回答平均：2.54

【事後】

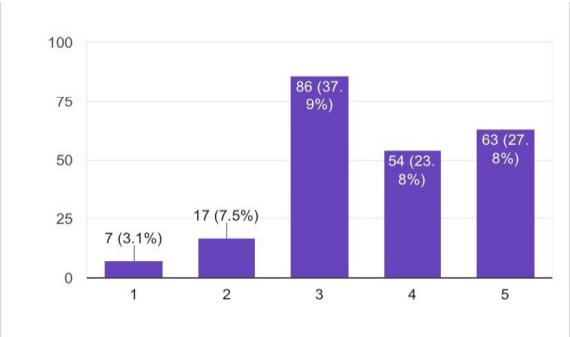



図2：今回の企画を通して、他の部とのつながりを深められたと思いますか？
平均回答：3.66

体育祭を行うことで、少しではあるがつながりが深まっていると感じる人が増えた。この体育祭が互いを応援・刺激し合う関係へとなることへのきっかけとなっている。

体育祭を行うことで、複数の団体や大人数を動かし、一つの行事を運営する力が身につきました！また、体育会が集まり、横のつながりを深めることで、立命にとっても互いにとってもより大きなパワーになるのではないかと改めて感じることができました。

《今後の予定》

体育会にとってさらに大きな行事にするためにも毎年この体育祭を続けていくつもりでいます。参加してくださる体育会の部がまだまだ少なく、ごく一部なので、もっと多くの部を巻き込んでいきたいと考えています!!

# Orang Earth

## ~地域活性事業を通じて”みんなが輝く社会”を目指す~

## オランアースの描くビジョン

### 伊根町本庄地区とは？

京都府丹後に位置する。人口367人、高齢化率43%と人口減少と少 子高齢化の著しい地域。しかし山と海と平野の恵まれた自然条 件のもと育まれた浦島伝説の伝統文化 や幻の小豆である蔦池大納言、「人」という地域資源が潤沢にある。

### ビジョン

田舎に多様な人々が交流を目的として集まり、双方に刺激しえる場所作りを通じてOrang(人)Earth(地球)で地球市民を生み出す。

## 今年度の活動

### 今年度の目標

伊根町の新たな食資源の発掘と活用を通して、に創造農村を形成する。

### 活動実績

6月　本庄小学校で田植え
7月　蔦池大納言種蒔と滝山道整備
8月　伊根花火大会
10月　うみゃーもん祭り
2月　生産者ツアー
3月　伊根食堂

## 今後の展望

伊根町の生産者と交流、お手伝いする生産者ツアーで、オランアース以外の学生と地域の方々が繋がりを持つことができ、伊根町での交流人口が増えた。
引き続きこの企画を実施し、伊根町に新しい風を吹き込んでいく。
また、地域の要望に応えるために、伊根町の子供達への食育や交流に力を入れていく。